

臥薪嘗胆

(中国の古い話)

昔、中国に、呉と越という二つの国があり、長い間、争っていました。ある戦いで、呉の王は、越の国に敗れ、そのときのきずがもとでなくなってしまう。王のむすこの夫差は、父のかたきを決してわすれまいと、毎ばん、かたいまきの上にねて、そのいたみで、くやしさを思い出しました。数年後、夫差は、越の国をせめて、越の王の勾踐を打ち負かしました。勾踐は、命だけは助けられましたが、呉の国にしたがうことになりました。国にもどった勾踐は、この負けをわすれないように、苦い動物のきもを部屋につるし、毎日それをなめては、「おまえは、呉に負けたくやしさをわすれたのか。」と自分に言い聞かせました。

そして、それから二十年ほど後、勾踐は、ついに呉の国を負かしたのです。この話から、目的をとげるために、長い間、苦しみにたえることを、「臥薪嘗胆」というようになりました。「臥薪」はまきの上になること、「嘗胆」はきもをなめることです。

1 夫差が、毎ばんかたいまきの上になたのは、どうしてですか。

--	--

2 勾踐が、毎日、苦いきもをなめたのは、何のためですか。

ア 体を強くするため
イ 呉に負けたくやしさをわすれないため
ウ 病気を治すため

3 出来事の順に、□に1・2・3を書きましょう。

□ 勾踐が、呉の国を負かす。

□ 呉の王が、越に敗れる。

□ 夫差が、勾踐を打ち負かす。

4 「臥薪嘗胆」とは、どういう意味ですか。

--	--